「紫斑病性腎炎における腎病理学的所見と２年間の臨床経過との関連の検討」について

1. **研究（調査）の目的と概略**

紫斑病性腎炎は小児における代表的な二次性糸球体疾患であり、その臨床経過は軽快する例から慢性的な尿異常や腎機能障害を残す例まで多岐にわたります。
腎生検による病理学的評価は治療方針決定に重要とされていますが、病理所見と中期的な予後との関連については、必ずしも十分に明らかになっていません。
本研究の目的は、紫斑病性腎炎患児における腎病理学的グレードと、治療内容および２年間の臨床経過との関連を明らかにすることです。発症年齢、初期臨床像、生検前の検査所見、治療介入の内容と予後との関係について検討します。
本研究により、紫斑病性腎炎における予後予測因子の整理や、治療強度選択の判断材料を得ることが期待されます。

2. **研究（調査）の方法**

2011 年 12 月~2026 年 2 月までの間に、岐阜県総合医療センターに通院歴のある紫斑病性腎炎の患者様に関してカルテから後方視的に情報を抽出します。発症時年齢、性別、腎生検までの期間、腎病理学的所見、治療内容、生検前および２年後の尿・血液検査所見について解析します。

3. **研究（調査）の参加施設**

岐阜県総合医療センター

4. **調査期間**

2011 年 12 月から 2026 年 2 月

5. **調査の対象となる患者様**

調査期間中に腎生検で紫斑病性腎炎と診断し、治療開始後２年以上経過した患者様です。

6. **この調査への協力は任意です**

本研究は、患者様の診療記録から得られた情報のみを用いる観察研究であり、新たな診療や検査を患者様にお願いするものではありません。研究結果は、個人が特定できないように匿名化して管理し、個人情報の保護に十分配慮します。データのご使用をお断りになる場合には直ちに情報の利用を停止いたしますので、ご遠慮なくお申し出ください。

7. **お問い合わせ先**

本研究は、岐阜県総合医療センターの倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を得ています。お問い合わせは下記です。
岐阜県総合医療センター小児科　篠田優　電話 058-246-1111